

柔道ニ誘發セル網膜穿孔ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38477

○柔道ニ誘發セル網膜穿孔ニ就テ

金澤病院

特別會員
醫學博士
高安右人

(澤金)

本篇ハ明治四十一年四月一日福岡醫科大學ニ於ケル日本眼科學會總會ニ於テ演述シタルモノナリ

夫レ網膜ノ穿孔ハ網膜ノ剝離ニ繼發シ網膜穿孔スルトキハ其外部ニ滯溜スル液体ハ硝子体内ニ灌流シ茲ニ剝離シタル網膜ヲシテ再ビ脈絡膜ニ附着セシムルノ効力ヲ有スルガ故ニ大ニ有益ナル者ト推定シエスマルヒ氏ノ如キハ網膜剝離ニ對スル唯一ノ手術法トシテ其穿孔法ヲ企テタリ (Archiv f. O. Bd. IV. 1. Heft p. 350, 1858.) 而シテ網膜剝離ヲ有スル眼ニ其穿孔ヲ見ルハ決シテ稀有ニアラザルナリ然レモ其穿孔ハ剝離ニ繼發シタルニアラズ却テ剝離ノ穿孔ニ繼發スルモノナルハレーベル氏、又ノルデンソン氏ノ試驗ニ依リテ明カナリ而シテ多クハ穿孔後間モナク剝離繼發スルヲ以テ既ニ此剝離ヲ呈シタル時又ハ穿孔ハ通例極周圍ニ存スルガ爲メ醫士ハ却テ剝離ノミヲ認メテ未ダ穿孔ヲ發見セズ後日之ヲ發見シテ以テ繼發シタル者ト誤認シ未ダ剝離ヲ起ササル前ニ於テ其穿孔ヲ觀察スルノ機會ニ遭遇スルコトノ少ナキニ依リ多數ノ人ハ穿孔ヲシテ剝離ノ繼發症ト信シタル者ナラン

予ハ頃日柔道練習中網膜破裂ヲ起シ後日其剝離ヲ來シ手術ニ依テ再ビ癒着セル一ノ實驗例ヲ得タレバ今是ヲ報告シ諸君ノ參考ニ供セント欲ス

高井某 十九歳ノ中學校生徒

祖父ハ八十六歳祖母ハ九十歳ニテ死ス父母健在同胞五人アリ皆健全ニシテ眼疾ナシ患者ハ第

三子ニシテ生來強健會テ著病ニ罹リシコナシ

二三歳ノ頃左眼疾病ニ罹リシコアリト云フモ病症詳カナラズ八九歳ノ頃左眼角膜ニ星ヲ生ジ霞ム感アリテ醫治ヲ受ケルノ三ヶ年程ニテ全治セリ
十三歳頃始テ遠見ニ困難ヲ覺エ本院ニ於テ近視兼弱視ノ診斷ヲ受ケテ地方ニテ凡ソ二百日間治療ヲ受ケシモ好果ナカリキ十五歳ノ時學校受業中始
メテ三十六度ノ凹面鏡ヲ用ヒ爾來近視漸々増進シ十六歳ノ時十五度トナリ左眼ハ眼鏡ヲ用ユルモ右眼ニ比シ稍劣レリ其後一ヶ年ニシテ十四度ニ
進ミタリ

十七歳ノ時ヨリ柔道ヲ學ビ昨年十月其練習中他人ノ足ヲ以テ左眼ヲ打撲セラレ眼險浮腫シ結膜充血ヲ來セシモ二日間冷罨法ヲ爲セシニ全ク治セ
リ昨年十二月頃ヨリ近視又々増進シ十二度トナレリ

本年一月十日下級者二十余人ト柔道乱捕ヲ爲シ大外菊ニテ七八回倒レ左手ヲ衝ク其間ニ突然左眼視力朦朧トナリ
眼前薄紙ヲ張リタル如キ感ヲ爲セルモ意ニ介セズ尙練習ヲ繼續シ夕刻歸宿セリ而シテ少シク流淚羞明アリシヲ以
テ冷罨法ヲ行ヒ或ル賣藥ノ点眼ヲ試ミヌ翌十一日視力減退甚シキニ關セズ昇校シ上級者二名ト乱捕ヲ爲ス此時ヨ
リ視力減退益々甚シキニ依リ某醫ノ診察ヲ受ケシガ硝子体溷濁ナリトテ安靜ヲ命ゼラレ内服、点眼、肩胛部皮下
注射等ノ治療ヲ受ケ一里半余ヲ徒步シ家ニ歸ル然ルニ視力減退益々甚シク三四尺ヲ隔テ、家人ト對坐スルモ左眼
ノミニテハ朦朧トシテ只其黑影ヲ認ムルノミニ至レリ翌十二日同里程ヲ歩行シ富山ニ出デ汽車ニテ金澤ニ來リ本
院ノ診療ヲ求メ入院セリ

現症 体格中等營養佳良ナリ眼ハ外見上別ニ異狀ナキモ少シク臉裂ヲ狹小ニシテ視ルノ癖アリ結膜角膜ニハ更ニ異
常ナシ瞳孔ハ左右共中等大ニ散大シ反應少シク遲鈍ナリ(「ホモアトロピン」点眼ニ依ル)

倒像検査法ニ依リ眼内ヲ檢スルニ右眼ハ透明部異常ナク乳頭ノ形僅カニ梨子狀ヲ呈シ其經界少シク判明セズ網膜
色素ハ通例近視眼ニ目擊スルガ如ク大ニ消耗シ所々脈絡膜血管ヲ能ク透見スルヲ得

左眼ニ於テモ亦透明部ハ更ニ異常ナキモ乳頭稍橢圓形ヲ作シ經界少シク朦朧タリ靜脈僅ニ怒張蛇行シ動脈ニハ異常ヲ見ズ網膜面ハ一般少シク溷濁スルノ感アルモ格別ノ滲出物ナク周圍部特ニ下半部ノ如キハ明カニ脈絡膜血管ヲ透見スルヲ得硝子体溷濁出血等ヲ認メズ眼ヲ強ク外方及少シク上方ニ廻轉セシメ檢スルニ少シク迂曲スル白色ノ稍光澤アル二三ノ線狀皺襞アリ中心ニ向テ漸々合体シ稍廣幅ノ帶狀線ト爲リ其終端ニ梨子狀ノ黃斑部大ノ網膜闕損部アリ周圍ニ向フ緣ハ鈍圓ナルモ中心ニ向フ緣ハ稍圓錐形ヲ成シ創緣少シク腫起スルノ觀アリ其底面ハ暗赤色ヲ成シ二個ノ脈絡膜血管ヲ認ム其近部ハ網膜多少青帶灰白色ニ溷濁スルモ僅ニシテ健康面ニ移行ス其近部ニ於テ闕損部ノ三分ノ二大ノ圓形灰白色ノ膜狀物アリ其一端ハ短カキ絲狀ノ莖ニ依テ欠損部ノ内下緣ト連繫シ眼ノ運動ニ伴フテ浮動シ恰モ空中ニ飛翻スル紙風ノ軟風ニ逢フテ靜ニ昇降スルニ似タリ故ニ檢眼ノ際穿孔部ノ一部若クハ大部分ヲ隱蔽ス其位置ハ黃斑部ヨリ其三四直徑外方ニシテ水平線ヨリ稍上方ニ在リ左眼ノ網膜色素ハ右眼ノ如ク消耗セズ

視力 右 $\frac{6}{24}$ 六、五 D ノ凹面鏡ニテ $\frac{6}{9}$

左 $\frac{40\text{cm}}{F}$ 眼鏡無効

處置 沃刺内服、「ピロカカルペン」發汗注射、隔日、壓抵繃帶、一%硫酸亞篤管比涅左右朝夕一滴宛点眼

經過 一月二十二日 闕損部少シク狭小トナリ其内外緣ノ皺襞著明ト成リ右眼乳頭境界稍々明了トナル視力右 $\frac{6}{24}$ 左 $\frac{6}{60}$

二十七日 穿孔部大ニ狭小トナリ邊緣溷濁減少シ皺襞消失ス視力左 $\frac{6}{40}$

二十八日 視力左 $\frac{6}{40}$ 右 $\frac{6}{18}$ 凹鏡 4.5 D ニテ $\frac{6}{12}$

二月一日 浮動スル膜狀物少シク收縮シ眼底別ニ異變ナキモ視力少シク退却ス、視力左 $\frac{6}{60}$ 右 $\frac{6}{24}$ 凹鏡 5.5 D ニテ $\frac{6}{9}$

十一日 ヨリ「ストリヒニン」注射ヲ始ム

(原著及實驗)

十六日 視力左 $\frac{6}{60}$ 右 $\frac{6}{18}$ 欠損部漸々小トナリ邊縁一層明瞭トナリシモ網膜外下方ノ滲漏劇甚トナリ網膜下ニ滲出物ヲ見ル

二十日 左眼乳頭ヨリ外下方ニ於テ網膜剝離ヲ起セリ

二十八日 視力前同斷、剝離益々増大ノ模様アリ依テ鞏膜切開ヲ施セシニ僅ニ褐色ヲ帶ベル漿液十滴余漏出セリ今日ヨリ發汗注射ヲ止ム

三月一日 剝離シタル網膜全ク癒着シ殆ンド常態ニ復セシモ網膜面一般尙多少滲漏ス 視力左 $\frac{6}{60}$

七日 網膜一般大ニ清期トナル視力左 $\frac{6}{40}$ 右 $\frac{2.5D + 小孔}{6}$

十三日 靜脈尙僅ニ怒張スト雖網膜滲漏益々減退シ破裂部大ニ狹小シ乳頭ノ二分ノ一大ト成ル視力左 $\frac{6}{40}$ 右 $\frac{6}{18}$ 小孔若クハ凹面鏡 3.0 D. ニテ $\frac{6}{6}$

二十五日 穿孔別ニ變動ナキモ網膜面一般ニ少シク滲漏セシ觀アリ視力前同斷

上記ノ如クナルガ故ニ多少素因ノ存セシナランモ兎ニ角柔道ニ誘發シタル網膜穿孔ニシテ四十一日目ニ網膜剝離ヲ繼發シ鞏膜切開ニ由テ再ヒ癒着シタル者ナルヤ明カナリ

(明治四十一年四月一日受領)

○白点狀網膜炎之二例

(附、第二圖版三圖)

特別會員
醫學博士
高安右人

(澤金)

本籍ハ明治四十年六月一日金澤醫學專門學校十全會講話大會ニ於テ演述シ、再ビ明治四十一年四月一日開催ノ福岡醫科大學ニ於ケル日本眼科學會總會ニ述ベタルモノナリ

余ハ曾テ本病ニ就キ甚ダ稀ナル疾病トシテ其二例ヲ紹介シタリキ(グレ!フエ氏眼科實函第六拾叁卷第二號)。日本眼科學會雜誌第拾卷第五號)然ルニ其後又貳例ヲ得タリ斯ノ如ク僅々數年間ニ此四例ヲ實驗スルヲ得タルハ眞ニ偶